



生涯学習推進者実践講座【中信】「命を守るための備え」

松本市庄内地区は、牛伏寺断層による地震、土砂災害、河川の氾濫などが懸念される地域です。多発する自然災害により、日本各地で大きな被害が報道されるたびに、地震・水害が当地区の課題として大きくのしかかって来ています。今回は、実践講座として防災について学び、地域に合わせた対策を検討するために、命を守るための講義と水害編のHUGを行ないました。災害においてはまず参加者一人一人が災害時のリアルなイメージを持つことが大事で、それによりの確な回避行動、避難行動がスピーディーにできると考えられることを学びました。HUGでは、臨場感一杯に避難所での対応を経験しました。（受講者数44人）

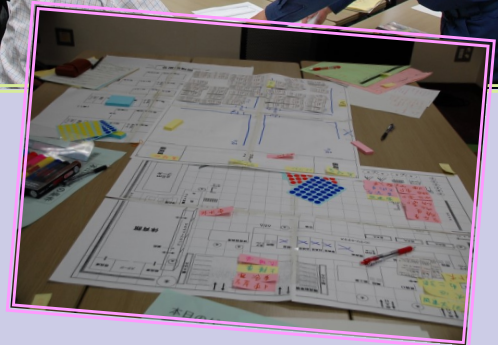
〈研修内容〉

【講義】「命を守るための備え」

【演習】「学校を避難所に想定した避難所運営ゲーム『HUG』」

講師 兵庫県広域防災センター防災教育専門員

神戸大学大学院都市安全研究センター 田中 健一 氏



受講者アンケートから

- 大雨警戒レベルの話（発信者と受信者の対応）がわかりやすかった。防災というと事後のことを考えがちだったが、「自分が死なない」ことの重要性を感じた。（複数）
- 今まで知らなかった情報を聞くことができた。
- 【HUG体験より】
- 自分の変化に対する対応能力の無さを痛感した。あらかじめマニュアル作成が必要だと考えました。
- 実体験の話は、よりリアルで今後地区への災害に対する不安が高まったのと同時に、準備の必要性を強く感じた。
- こんなに忙しいと対応が難しいと思った。前もって担当を決めておくことが大切。
- 参加者が全て役割を決めて取り組んでいた。このような研修はとても有意義であった。機会があれば再度受講したい。
- 思うようにできないが面白かった。本当にこのように行動できるかを、考えながら行動してみたいと思う。